

# 県北の家庭教育応援企業通信

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

電話 024-521-2814

## 【新規申込み企業の紹介】

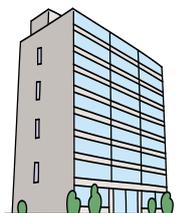
〈福島市〉 ○福島ネオ工業株式会社      ○宮本技研工業株式会社

〈二本松市〉 ○南電設株式会社

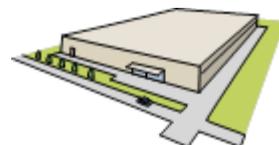
★ 今後とも、家庭教育の推進と子どもたちの健全育成のためお力添えをいただきますよう、  
お願いいたします。

## 家庭教育応援企業としての御支援と御協力ありがとうございます

〈福島市〉 福島ヤクルト販売株式会社、大槻電設工業株式会社、福島信用金庫、佐藤工業株式会社、朝日システム株式会社、東開工業株式会社、  
社会医療法人秀公会、株式会社福島銀行、株式会社ダイキューエイト、株式会社大丸工務店、株式会社東邦銀行、株式会社山川印刷所、  
株式会社日進堂印刷所、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、第一温調工業株式会社、協和ポーリング株式会社、  
株式会社トーネット、株式会社トーネットコーポレーション、株式会社三本杉ジオテック、株式会社オノヤスポーツ、  
株式会社日新土建、株式会社クリーンテック、株式会社環境分析研究所、株式会社このの、一般財団法人大原総合病院  
株式会社阿部階工、株式会社光和設備工業所、シオヤユニテック株式会社、福島酸素株式会社、株式会社クリフ、  
内池醸造株式会社、株式会社アポロガス、社会福祉法人けやきの村、福島民友新聞株式会社、株式会社ジェンツ、  
生活協同組合コープふくしま、渡辺エンジニアリング株式会社、株式会社福島民報社、福島ガス株式会社、社会福祉法人陽光会、  
きらり健康生活協同組合、北芝電機株式会社、アース株式会社、株式会社エイティック、有限会社西坂製作所、  
福島カラー印刷株式会社、福島鋅金工業株式会社、有限会社佐戸川ダクト鋅金工業所、株式会社サン・バンティング福島、  
株式会社倉島商店、東北電力株式会社福島支店、イーコンセプト株式会社福島支店、株式会社モリヨシ技研、  
社会福祉法人ライフ・タイム・福島、コボックス株式会社、有限会社テレサ、株式会社ライフロール、渋谷レックス株式会社、  
中央設備株式会社、協三工業株式会社、株式会社古俣工務店、株式会社福島製作所、ミライズ株式会社、株式会社キスキ、  
株式会社沖データ福島事業所、株式会社高槻、株式会社エー水技研、新広建設株式会社、株式会社ももがある、有限会社やない製麺、  
福島工ナメル工業株式会社、有限会社櫻井運送、株式会社丸福織物、社会福祉法人北信福祉会、株式会社シンワ、株式会社銀嶺食品、  
株式会社コアテック福島支社、株式会社旭電化、有限会社アネスティ、ふくしま未来農業協同組合、株式会社フクセツ、  
株式会社信濃屋、有限会社 幸、文化設備工業株式会社、富久泉工業株式会社、株式会社ユミヤマ、サンヨー缶詰株式会社、  
採用と教育研究所、特別非営利活動法人チームふくしま、高野精器有限会社、**福島ネオ工業株式会社、宮本技研工業株式会社**



(次ページへ続く)



## 家庭教育応援企業としての御支援と御協力ありがとうございます

- <川俣町> 株式会社川俣町農業振興公社、株式会社小林、株式会社菅田、有限会社大善自動車整備工場、株式会社渡辺機械、有限会社藤野精工
- <伊達市> 富士通アイソテック株式会社、公益財団法人仁泉会、株式会社ナプロアース、社会福祉法人慈仁会、社会福祉法人信達福祉会、三和石油ガス株式会社、株式会社新栄製作所、常興工業株式会社、大沼林産工業株式会社
- <桑折町> 福興産業株式会社、曙ブレーキ福島製造株式会社、株式会社三栄精機製作所、渋谷建設株式会社、根本建設株式会社、社会福祉法人緑風福祉会
- <国見町> 公立藤田総合病院、株式会社国見メディアデバイス、株式会社荏原風力機械国見工場、有限会社斎藤建設、株式会社福梁製作所、株式会社樋口屋商店
- <二本松市> 株式会社丸や運送、二本松信用金庫、医療法人辰星会、株式会社オウジ、株式会社野地組、人気酒造株式会社、福島ルビコン株式会社、株式会社協栄製作所、福島タカラ電気工業株式会社、高橋電機株式会社、株式会社東北東海、**南電設株式会社**
- <大玉村> 株式会社三和製作所、株式会社富士ピー・エス東北工場、パーフェクトン株式会社、おおたま村づくり株式会社、公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
- <本宮市> アルス株式会社、株式会社光大産業、東北協同乳業株式会社、株式会社イワキ、株式会社マインド、川名建設工業株式会社、株式会社東北電設、コハテック株式会社、有限会社菅野自動車整備工場、有限会社武田産業、有限会社飯田製作所、株式会社ヨシハラ、有限会社佐藤工業、株式会社相原製作所

## 親子の学び応援講座を開催しました。 (川俣町PTA連絡協議会)

地域でつながる家庭教育応援事業「親子の学び応援講座」(川俣町PTA連絡協議会)  
平成30年8月1日(水) / 川俣町中央公民館

【講演】 「子どもの自己肯定感を高める親・教師の接し方」

【講師】 福島県学校教育相談員 山本和宏氏

社会情勢の様々な変化により、いじめや不登校などの問題が顕在化し、子どもたちの自己肯定感の形成に及ぼす影響が懸念されています。そのような問題に対応する取組を各家庭で行っていただけるように、域内4地区のモデル連合PTAで、「自己肯定感の形成」をテーマにした講座を実施しています。

第1回目の講座を、8月1日(水)に、川俣町PTA連絡協議会で開催しました。講師の山本氏から、自己肯定感の形成のために親や教師が留意すべきことを、ポイントを絞って分かりやすく説明していただきました。時にマジックを交えながらのユーモアあふれる山本氏の講演に、参加者は、うなずいたり、笑みを浮かべたりしながら、聞き入っていました。アンケート結果などから、今回の講演内容を、参加者一人一人が自分のこととして受け止め、それぞれの家庭や学校で生かしていこうとする意識の高まりを伺うことができました。



## ＜講演の主な内容＞

### ① 自己肯定感とは何か？

- ・ 自己肯定感とは、「自分は大切な存在だ」と思える心の状態のことであり、自分を肯定している感覚や感情である。
- ・ 自己肯定感の対義語は、自己否定感である。自己肯定感が低い子どもは、「もうだめ」「できない」など自己否定感が強い傾向がある。
- ・ 自己肯定感を高めるためには、そのままの自分を受け入れられる前向きな思考が求められる。
- ・ 自己肯定感の形成には、コミュニケーション能力も重要な要素になる。人とのコミュニケーション作りが苦手な子どもは、自己肯定感も低くなってしまいう傾向がある。

### ② 自己肯定感の形成要因と低い原因

- ・ 自分と他者との過度な比較により、自己肯定感の形成が阻害される場合が多い。
- ・ 親との関わりの中で、虐待があったり自分を否定されることが多かったりすると、自己肯定感もてなくなる。また、親の過干渉や過保護も子どもの自己肯定感を低くする要因となる。
- ・ 思春期における友達との肯定的な関わりが構築されなかったり、教師との信頼関係が崩れてしまったりすることも、自己肯定感を形成する上で阻害要因になる。

### ③ 自己肯定感を高めるために家庭（学校）でできること（家庭教育手帳から）

- ・ 自己肯定感の形成には、信頼関係の構築が前提となる。子どもたちにも言い分があり、常に自分の思いを聞いてもらいたいと思っている。親や教師が子どもたちの発言や意見に真剣に耳を傾けることで、信頼関係を築くことができる。
- ・ 子どもの良さをほめるためには、普段の様子をよく見るのが大切になる。子どもの食べっぷり、遊びっぷり、つき合いっぷりなど、子どもの変化に気づくように心がける。
- ・ 子どものしつけには、だめなことはだめという父性的なもの、その子の気持ちをくんであげる母性的なものの適度なバランスが必要となる。
- ・ 子どもが自己決定する場面を意図的に設定するとよい。自分で決定したことに対しては、じっくりと見守っていける親や教師であってほしい。「これでいい」ではなく、「これがいい」と言える子どもに育てたい。
- ・ 自己解決力を育てたいのであれば、子ども同士のけんかやトラブルに親が出しゃばり過ぎないようにすることが大切である。親が出過ぎてよいことはひとつもない。自力で折り合いをつけられる子どもにさせたい。

### ④ 自己肯定感を高めるほめ方・叱り方

- ・ 決して感情的にならず、その場で対応するしつけが望ましい。「前もこうだったよね。お前は〇〇なんだから！」のように以前の出来事を引き合いに出して、決めつけてしまうような言動は控えた方がよい。
- ・ 子どもをほめたり叱ったりするときは、公平に行うようにする。えこひいきは絶対にしてはいけない。
- ・ 「叩いたらいけないって言ってるでしょ。何回言ったら分かるの、この子は、・・・」と言ったあと、親が「バシッ！」と叩くなど、言っていることとやっていることが一致しない二重メッセージを送ってはいけない。子ども自身が納得できるような叱り方が、子どもの真の成長を促していく。



- ◎ 子どもの自己肯定感を育てるために必要なことは、親や教師が自身の自己肯定感を高めて、じっくり子どもと関わるゆとりをもつことである。それができなければ、子どもたちの自己肯定感は育っていかない。

## 家庭教育お役立ち情報

家庭教育を推進するための「県北地区フォローアップ研修会」が開催されます。子どもの自己肯定感とやる気を引き出すために、どのような子育てをすればよいのかを考える研修会です。「子どものやる気を引き出す魔法のスイッチ」がどんどん見つかります。

どなたでも参加できますので、参加を希望される方は下記によりお申し込みください。

平成30年度「地域でつながる家庭教育応援事業」県北地区フォローアップ研修

**参加者募集**

**子どものやる気を引き出す魔法のスイッチ**

**実践できるヒントがいっぱい**

子どもが頑張る姿を褒めてあげよう  
子どもが頑張る姿を褒めてあげよう

子どもが頑張る姿を褒めてあげよう  
子どもが頑張る姿を褒めてあげよう

<b>日時</b>	<b>10月29日(月)</b> 14:00~16:40
<b>会場</b>	<b>県青少年会館</b> (福島市黒岩字田部屋53-5) <span style="background-color: red; color: white; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">無料</span>
<b>対象</b>	保護者(幼/保/小/中)、教職員(幼/保/小/中)、地域子育てサポートチーム養成研修了者、青少年健全育成・子育て支援に関わる方、社会教育・生涯学習担当者、家庭教育事業担当者 一般市民の方々等
<b>講師</b>	 <p><b>千葉敬愛短期大学 学長</b> (国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター員)</p> <p><b>明石 要一氏</b></p>
<b>内容</b>	<b>【講演】「自己肯定感を育むために」</b>
<b>日程</b>	<b>~今の子どもたちに必要なこと~</b>

13:40	14:00	14:10		15:40	15:50		16:30	16:40
受付	開会	講演 (90分)	休憩	グループ協議 (40分)			閉会	

主催：福島県教育委員会

**申込方法**

下欄の参加申込書(様式1)により、郵送、FAX、メール、電話などで、県北教育事務所総務社会教育課までお申し込みください。

**【申込締切：平成30年10月23日(火)】**

**お申し込み先**

〒960-8670 福島市杉妻町2-16 福島県庁北庁舎1階  
 福島県教育庁県北教育事務所総務社会教育課 (担当：神尾)  
 TEL：(024)521-2814 FAX：(024)521-2870  
 E-mail：kenpoku.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

(様式1)

平成30年度地域でつながる家庭教育応援事業  
「県北地区フォローアップ研修」申込書

氏名
所属団体、役職名等
連絡先の電話番号
氏名
所属団体、役職名等
電話番号
氏名
所属団体、役職名等
電話番号

※ ご記入いただいた個人情報は、本事業にかかわる目的以外で使用することはありません。

## 家庭教育応援企業の取組をお知らせください

家庭教育を充実させていくためには、家庭や地域だけでなく、企業の取組の推進が益々求められています。各社の素晴らしい取組を発信し、広く紹介して参ります。随時受け付けておりますので、家庭教育のより一層の充実のため、ぜひ、取組の様子を御報告ください。